

# 第43回やまぐち眼科フォーラム

日時：2025年7月24日(木) 18:00-20:00

場所：KDDI維新ホール 2階「201A/B/C」

山口県山口市小郡令和1丁目1-1

会費：3,000円

特別講演1 18:00～19:00

山口県眼科医会 会長/大西眼科 院長

座長 **大西 徹** 先生

## 「疫学研究から探る 緑内障のリスク因子に関する知見」

慶應義塾大学医学部眼科学 助教

演者 **羽入田 明子** 先生



特別講演2 19:00～20:00

山口大学大学院医学系研究科 眼科学 教授

座長 **木村 和博** 先生

## 「糖尿病網膜症の治療戦略 ：硝子体手術と網膜光凝固の役割を再考する」

秋田大学大学院医学系研究科 眼科学講座 教授

演者 **岩瀬 剛** 先生



※生涯教育認定事業（申請中）1単位  
※会場にてお弁当をご用意しております

共催：山口県眼科医会  
中外製薬株式会社

# 第43回やまぐち眼科フォーラム

## ◇演者◇

**羽入田 明子 先生** 慶應義塾大学医学部眼科学 助教

緑内障は高眼圧を筆頭に、様々なリスク因子が複雑に発症に寄与する多因子疾患 (heterogeneous disease) である。昨今、疫学研究を中心に、糖尿病や睡眠時無呼吸症候群など様々な慢性疾患と緑内障との関連が指摘されており、眼圧下降の点眼加療にとどまらず、ライフスタイルへの介入を含めた有効な予防法の探索が期待されている。我々の研究グループは、2011年より国立がん研究センター、大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学教室、および筑波大学医学医療系社会健康医学研究室と共同で、長野県佐久地域並びに茨城県筑西地域において、次世代多目的コホート研究 (JPHC-NEXT Study) の一環として、眼底写真や光干渉断層計 (OCT) を含む眼科精密検査を行い、緑内障や高眼圧症に関連するライフスタイル因子を模索してきた。本講演では、自験例や国内外の大規模疫学研究から、緑内障のリスク因子に関する最新の疫学的知見と、日々の臨床で活用できる緑内障予防を目指したセルフケアに関する情報を提供する。

## ◇演者◇

**岩瀬 剛 先生** 秋田大学大学院医学系研究科 眼科学講座 教授

糖尿病網膜症に対する治療としては、病態に応じた適切な手法が選択される。非増殖糖尿病網膜症の進行抑制には網膜光凝固が、糖尿病黄斑浮腫に対しては主に抗VEGF薬の硝子体内投与が、そして増殖糖尿病網膜症には硝子体手術が施行される。

網膜光凝固は、糖尿病網膜症の進行を抑制する上で極めて重要な治療法である。しかし、本治療の施行後における網膜の血管や血流状態の変化については、一定の知見が得られているものの、その詳細はいまだ明確には解明されていない。硝子体手術においては、MIVS (微小侵襲硝子体手術) の導入や広角観察システムをはじめとする周辺機器の発展により、術中の操作は以前よりも安全かつ容易に遂行可能となった。これにより、多くの網膜硝子体疾患に対して、より安定した良好な術後成績を得られるようになってきている。

しかし、増殖糖尿病網膜症は糖尿病の重篤な合併症の一つであり、網膜虚血による異常新生血管の形成、硝子体出血、および牽引性網膜剥離を特徴とする。手術はしばしば困難を伴い、術中には予期せぬ合併症が発生することも少なくない。術者は、これらの難症例や合併症に対応するために、病態を正確に把握し、多様な治療戦略を備えておくことが望ましい。

本講演では、糖尿病網膜症に対する網膜光凝固施行後の網膜血管および血流状態の変化、ならびに硝子体手術における治療戦略について述べる。